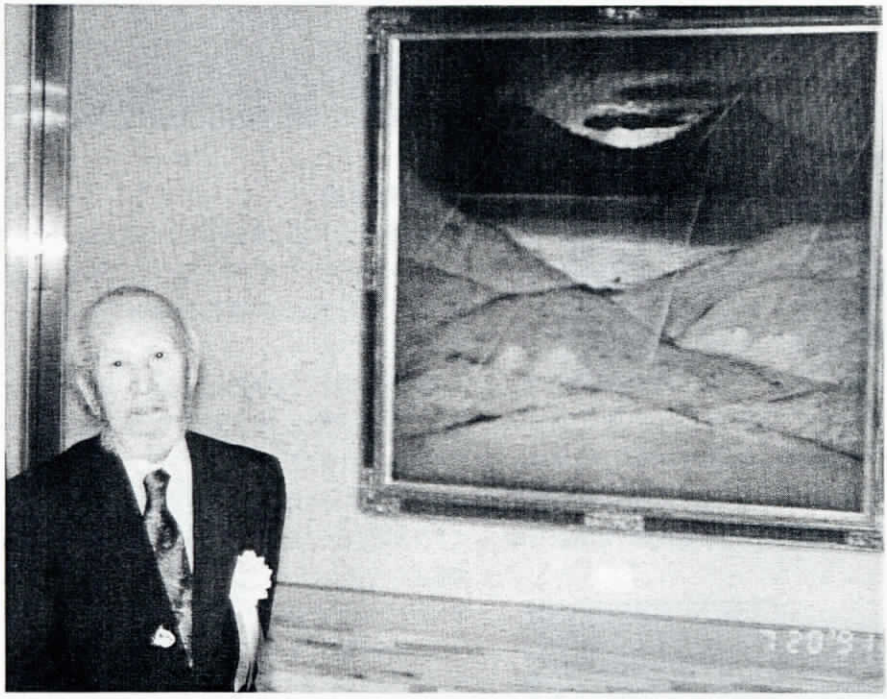
茅野市の博物館だより

No.5 1991.10.15

蓼科 八ケ岳通信

美術館



◀企画展初日に来館された小堀四郎氏

～茅野市美術館企画展「小堀四郎展」 好評のうちに幕～

去る7月20日より8月6日まで、蓼科の洋画家展の第2弾として「小堀四郎展」を開催致しました。小堀氏は昭和20年から30年にかけて蓼科に住み、農耕のかたわら創作活動をされ、この3月、「人格・芸術ともに優れた60歳以上の具象画家」に贈られる中村彝賞を受賞されています。89歳というご高齢ながら、現在もその制作にかける情熱はいっこうに衰えを知らず、「動中静」など100号以上の大作を制作されています。今回の展示は、1．「クリスパンとスキャンパン」（ドーミエの模写）等ヨーロッパ留学時代の作品　2．「諏訪湖夏花火」「八子ケ峰の秋」等蓼科在住時代の作品　3．近年制作された「生命の神秘」等精神性豊かな作品、の3部構成からなる43点の展覧により、作家の遍歴をたどることを企画の主旨としました。藤島武二氏に師事され、昭和10年の帝展改組以後、画壇を離れ孤高を守って画業一筋に歩んでおられる氏の作品展は、昭和61年の渋谷区立松濤美術館に続く4回目にあたります。当館にとって画期的なこの企画に対し、多くの方々より賞賛をいただきました。

今回展示した中に、月明かりに照らされた星空を描いた、「冬の星」「二人で歩いたきびしい道」等の一連の作品があります。張りつめた大気と作家としての哲学が、凜とした荘厳さをかもしだしている作品です。その静寂さが見る者に緊張感さえ与える、純粋に自己を求め続けた道は、今後時間とともにクローズアップされ評価されていく作品であると思われます。

誕生日にあたる会期初日、氏は夫人の杏奴さんとともに来館されました。今回の企画展を、小堀氏と、地元蓼科の人々との暖かい心の交流に支えられて開催でき、感謝の念にたえません。

『尖石遺跡』の発掘調査行われる

昨年に引続き、尖石遺跡の発掘調査が平成3年8月22日から9月6日まで行われました。

昨年度の調査と成果

昨年度の調査は、国特別史跡尖石遺跡指定地の西側境界付近で遺構の分布状態を調査し、遺跡の西端を明らかにすることを主な目的として行われました。

調査の結果、所在のはっきりしていなかった第18号住居址の位置を明確にできた他、宮坂英弐氏の指摘したとおり、第18号住居址より西側には遺構は見つからず、遺跡の西端を明らかにする目的も達成し、宮坂氏の研究の正確さを感じさせられました。

今年度の調査の目的

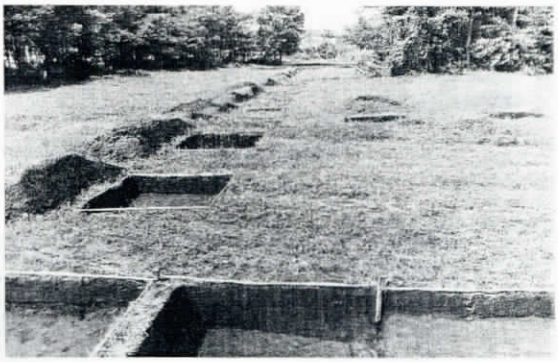
今年度の調査では、引続き遺跡の北西の限界を知ることを目的として調査を行ないました。この地区については過去に調査が行なわれておらず、遺跡の範囲を確定する目的の他に、尖石遺跡の集落構造をみる上にも、重要な地域と考えられました。

調査の方法

調査範囲の全体を掘り下げていけば遺跡の性格がはっきりわかるのですが、少ない調査面積で効率よく住居址を見つけるため、遺跡全体を覆った2m四方のグリッド（わく）を、1つおきに掘り下げていくことにしました。住居址は直径4m位の大きさなので、1つおきに掘り下げた2つのグリッドで住居址が発見できなければ、その間にも住居址はないことがわかります。

今回の調査では遺跡の北西の端を確認することを目的としたため、指定範囲を北西の端から順に調査を進めました。

やはり遺跡の中心に向かうほど土器や石器の出土も多くなっていきます。



調査の成果

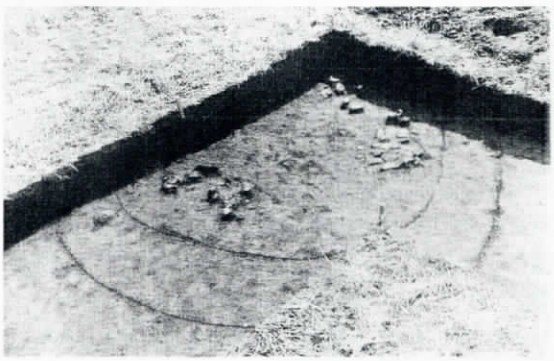
調査したグリッドは計53グリッド、1つのグリッドは4㎡なので、延べ212㎡と予定の120㎡を大きく上回る面積の調査を行うことができました。

検出された住居址は2軒、他に土坑と呼ばれる小さな穴が4基発見できました。発見された住居址は少なかったものの、尖石遺跡の北西端をほぼ明らかにできたと思われます。

今回調査した尖石遺跡の北西区で出土した土器は、2軒の住居址ばかりでなく、周辺も含めたほとんどが縄文時代中期の初頭から中葉にかけての時期のもので、南東区に分布が多い中期後半の曽利式土器はほとんど出土しませんでした。このことから中期の初頭から中葉にかけて遺跡の全域に大きな集落がつくられていたのが、後半に入ると、既に調査が行われている南東区に集落の中心が移り、北西区は集落の外になったという状況が明らかになりました。

また、遺物の出土状態から、今回発見された2軒の住居址が尖石遺跡の北西隅にあたるのではないかと考えられます。

なお、来年度は遺跡の東端を見極める調査を予定しています。



身近にあったふるさとの……

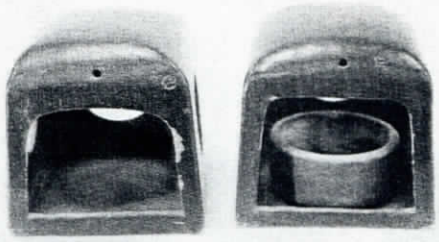
「温もりを伝える暮しの小物」

民俗資料収蔵品展開催
10月19日～11月10日

囲炉裏は日常生活の中心となった場所で、そこにはたえず火が焚かれていました。煮炊きや暖房に使われ、その火を囲んで食事もし、来客をもてなし、子供に昔話を聞かせたのもこの囲炉裏のまわりでした。

火を起こすには、台木に木の棒をあてキリをもむようにこすり合わせる方法と、石と鉄を打ち合わせる方法が、長い間行われてきました。昔は火を起こすことが想像以上に大変だったので、起こした火を消さないように務めました。またいろいろな用具が発達するまでは、１つの火が炊事にも暖房にも照明用としても使われていました。

やがて夜なべの手仕事などをするのに、松の根（ヒデ）を燃やす「ひでばち」を使うようになります。囲炉裏の火よりも明るい、照明用具のおこりです。屋外の照明には松明が使われ、屋内ではさらに、灯油を用いて行灯、ロウソクをともして提灯、石油を用いてランプ、というように、囲炉裏から灯火具が次々に分化し、改良されていきました。囲炉裏の残り火「燠」に灰をかぶせて火もちを良くし、そこに櫓とふとんをかけたもの、これが堀炬燵です。囲炉裏の燠や炭を利用したものには、火鉢、行火、懐炉などがあります。これらは囲炉裏以外の場所での暖房になりました。囲炉裏の自在鉤には鉄びんや鍋をかけ、かまどには釜や大鍋などを使いました。木炭を燃料としたコンロや七輪は、火の持ち運びを可能にしたものでした。



▲行　火　中の丸鉢に、おきや炭を入れた

◀土かまど　釜をのせた

今回の民俗資料収蔵品展は、囲炉裏を中心にして、炊事・暖房・照明の用具が分化し発達していく様子を、つい最近まで暮しの中で使っていたふるさとの民具で紹介します。

守矢文書について

―― 神長官守矢史料館

茅野市神長官守矢史料館は、「守矢家に伝来する史料」を収蔵し展示する館です。守矢家の祖先は、「洩矢の神」であるといわれ、のち神長（神長官）となり、古代から諏訪大社の筆頭神官として祭祀を司どっていました。

守矢家に伝来する史料は大部分が古文書であり、中世から近世まで多数あります。特に中世の古文書は貴重なもので、155点が長野県宝に、50点が茅野市文化財に指定されています。諏訪の歴史の中世の部分の多くは、守矢家古文書によって書かれています。その１つ、「守矢頼真書留」の中の、天文11年７月に諏訪頼重が武田信玄に滅ぼされる場面を記したページを開いて、展示しています。

守矢家の古文書は昔から専門家に注目されており、すでに江戸時代に写本して公開されたものもあります。大正２年「信濃史料叢書」（昭和44年複刻）、大正14年「諏訪史料叢書」（昭和58年複刻）、昭和31年「信濃史料」、昭和44年「新編信濃史料叢書」、平成３年「茅野市史史料集」が刊行され、それらの中で守矢家古文書の主要なものは何回も活字になっています。これらは図書館で閲覧できますが、当史料館にはその原本が全て収蔵されるわけです。生涯学習の場として、これらが生きてくるでしょう。

～山からのたより～　秋…… **おいしいキノコ** の季節です。

オオモミタケ（キシメジ科）

諏訪では「シロマツ」とか「ツガマツ」と呼んでいます。夏から秋にかけて、亜高山帯針葉樹林に点々と生えますが、数は少しです。幼菌は土の中にあってこん棒形で、やがて地上に出て傘が扁平に開きます。傘の色は灰褐色で、径は30cm位になるものもあります。

香りはマツタケに似ていますがわずかで、柄の根元や幼菌には多少苦味があります。しかし、歯切れ・舌ざわりともに大変良く、いろいろな料理ができます。

◀オオモミタケ

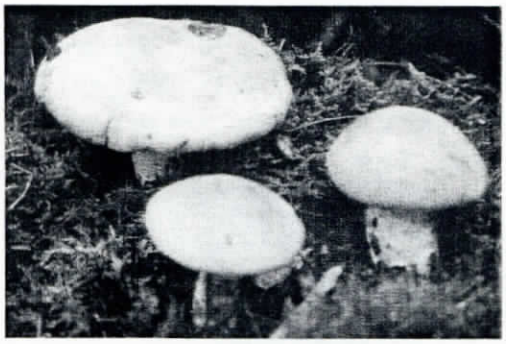
オオツガタケ（フウセンタケ科）

諏訪では「サマツ」と呼んでいます。主にアカマツ林に、群生またはまばらに生えます。傘ははじめはまんじゅう形で、やがて開いて扁平となり、径は10cm位にまでなります。表面はキツネ色で、湿っているときは粘性があります。生えているものは無味無臭です。

大変おいしいキノコとして好まれます。歯切れが良く、重厚な舌ざわりは第一級です。まろやかな風味はどんな料理にも合います。

（博物館専門委員　阿部義男）

▶オオツガタケ



これから開催します

＜美　術　館＞

第11回茅野市小中学生作品展

・絵画の部…11月3日(日)～11月20日(水)

市内小中学生の絵画，デザイン，ポスター等約350点の展示。

・書写の部…1月24日(金)～2月9日(日)

同じく，書初め等の書写作品約300点の展示。

いずれも入場無料です。

＜八ケ岳総合博物館＞

第3回市内小中学生発明工夫展

11月23日(土)～12月15日(日)

小中学生の工作・絵画・研究で，発明や工夫した作品を展示します。今回は，生徒とその家族とで作った共同作品の出品も予定しています。（募集は各小中学校ごとに行ないます。）

冬の野鳥観察会　　12月7日(土)・8日(日)

7日は冬鳥についての講習会を行ない（約2時間），8日早朝より，諏訪湖の横河川河口付近でコハクチョウやカモの仲間を観察します。

守矢史料館はこちらです

茅野市の博物館だより　八ヶ岳通信　No.5

発行年月日　平成3年10月15日
編集・発行　茅野市八ヶ岳総合博物館
〒391-02 茅野市豊平6983番地
TEL.（0266）73-0300
茅野市尖石考古館
〒391-02 茅野市豊平4734-132
TEL.（0266）76-2270
茅野市美術館
〒391　茅野市玉川500番地
TEL.（0266）73-5440